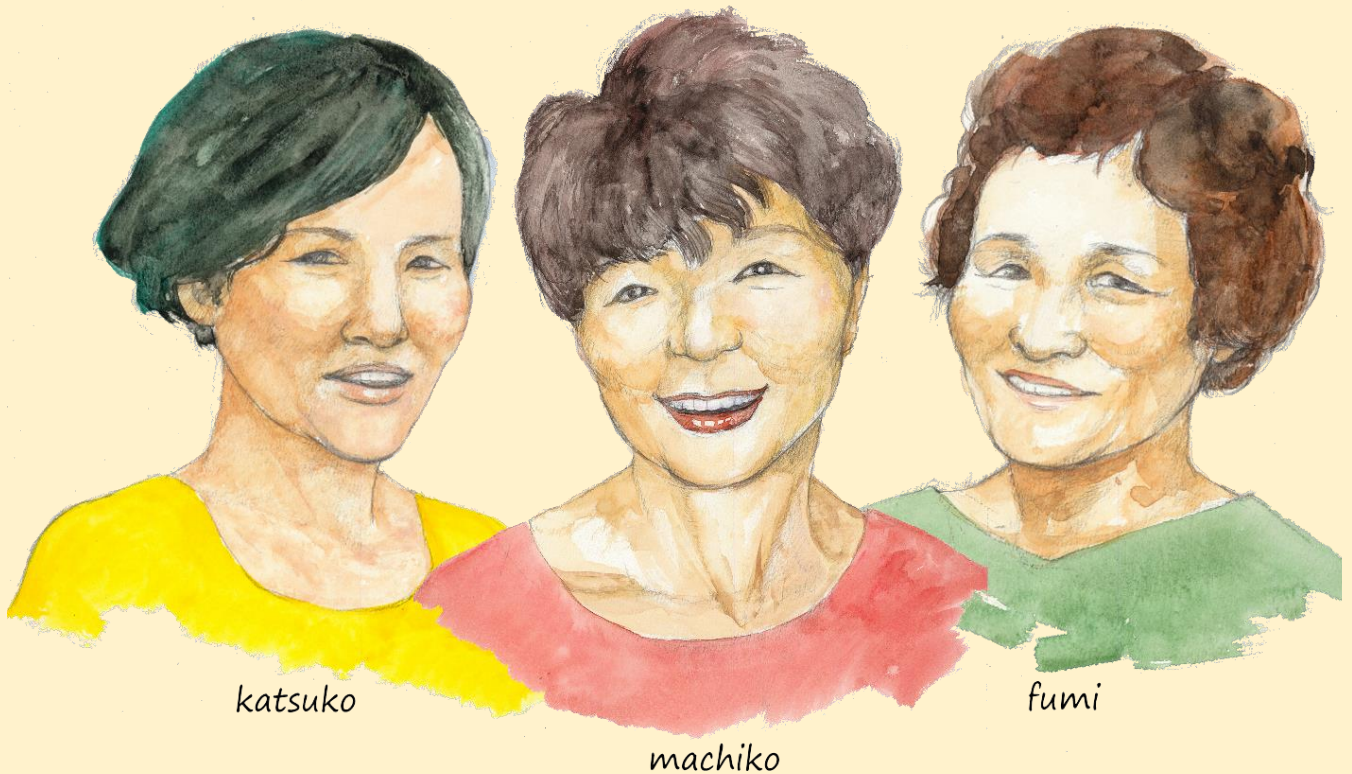


昔むかし、島根の真砂という山里に
勝ちゃん、まっちゃん、フミさんという3人の女たちがいました。



誰の家にも牛が居て、おじいちゃんおばあちゃんも一つ屋根の下
田んぼや野山が目の前で待っている毎日
かまど、風呂焚き、身の回りは火や煙の匂いに溢れ、ぬくもりのある日々
味噌、醤油は手造り
野良仕事
女が支える暮らし
3人はそんな真砂の
それぞれの家で暮らしてた。

祭りの日のご馳走が女の腕の見せ所
そんな各家のご馳走の中には、手造り豆腐がかならず
3人の女たちも各家で豆腐を造ってた
各家にはその家の豆腐が代々伝わっているものでした
なかでも勝ちゃんは豆腐造りが大の得意
家のお爺さんも認めて嫁自慢してた

あるとき真砂の面々で
地域を元気にする会社
真砂ならではの加工品を造る会社を立ち上げようという話になり
3人の女たちもそのメンバーに加わり
そこで
勝ちゃんが提案したのは豆腐造り
地元の大豆で昔ながらの豆腐を造って真砂を元気に
やってみようと
3人の女たちはこれまでの各家での豆腐造りの経験を活かし
商品としての豆腐造りにチャレンジすることになった
失敗、そして試行錯誤の日々が続く
ときには津々と雪の降るなか、深夜まで試作した晩もあった
とにかく女たちはあきらめなかった

そして
豆腐を商品にしていくための足取りは
いつしか
女が支える暮らしからの開放になっていった
自分たちの意思が優先される新しい場所
自分たちが働き、稼ぎを得ることが出来る場所

それが有限会社真砂
そこで生まれたのが真砂のとうふ

夢叶い
有限会社真砂が設立され、真砂のとうふの生産も軌道に乗り
自分たちの会社で
自分たちの意思に基づいて働くことが可能になったとき

悲しいことに勝ちゃんは
会社が出来て8か月目に体調不良を訴え仕事を去り
その3年後、還らぬ人となった

勝ちゃんが亡くなって
残る2人のまっちゃんと、フミさんは
これまで通りの豆腐造りを続け
ずうっとそのまま豆腐を造り続け
有限会社真砂が出来てから約20年もの歳月が過ぎ去り
やがて真砂のとうふはテレビに出たり
百貨店でも売られるようになり
そして今、まっちゃんや、フミさんは
おばあちゃんになり
でも今も
同じようにあの頃の豆腐を造り続けてる

誰も急がない山里
真砂
変わらない想い
変わらないとうふ
真砂のとうふ

勝ちゃんのこと、忘れてないよ

有限会社真砂 はじまりのものがたり

